

研究実践

D

1 研究テーマ

総合的な学習 かがやき学習 「豊かな体験活動の計画・実践」

2 テーマへの思いと研究実践

(1) 研究テーマへの思い

「せせらぎのまち河辺」の象徴で本校のすぐそばを流れる岩見川。イワナやアユなどの魚や水生生物がたくさん棲んでいる清流である。ふるさとの川として地域に親しまれている川だが、意外にも子どもたちは川で遊んだり釣りをしたりした経験がほとんどなかった。

昨年度は、「ふるさと夏の川とともに」の学校行事で、全校で川下りと川遊びを体験した。夏でも冷たい清流の気持ちよさを肌で感じた。子どもたちは、岩見川へ関心をもち今年度も川遊びをしたいという願いをもった。私も、子どもたちにふるさとの自然のすばらしさを体験的に学ばせたいと思った。そこで、総合的な学習で岩見川について調べ、交流を申し出た追分小学校に岩見川のよさを教えてあげ、一緒に川遊びを体験したいと考えた。

(2) 「せせらぎ探検隊」の体験活動

水生生物や石を探した川原探検

単元の導入で岩見川の川原を探検し、課題を発見できるようにした。ヘビトンボの幼虫やカジカ、模様の違う石などを見つけ興味・関心が高まり、岩見川のイメージマップを作成した。そして川に関係したビデオや本などを見て自分の調べたい課題を設定した。個の課題から水生生物・魚・サケ・石・環境の5つの課題別グループを作り追究活動を行った。

アユの稚魚の放流体験

岩見川漁業協同組合の協力で、約2千匹のアユの稚魚の放流を体験することができた。アユの稚魚に初めて触り、元気に育ててほしいと願って放流した。組合長さんから環境の変化と絶滅危惧種の魚等について教えていただき、川を守ることの大切さを学んだ。

追分小学校4年生との川遊び交流会

夏休みに、追分小学校4年生68名と岩見川で交流した。水めがねで水中の様子を観察したり、石の下の水生生物や魚をつかまえたりして、グループごとに楽しく交流できた。事前に、岩見川の様子や調べたことをビデオレターにして追分小に送っていた。自己紹介カード等も交換していた。夏休み後は、川遊びの感想やお礼を手紙に書いて交流した。

岩見川クリーンアップ活動

課題別グループの追究を通して、岩見川の自然の豊かさと環境を守っていくことの大切さが分かった。清流岩見川を守るために自分たちでできることとして川のごみ拾いをしたいと考え、クリーンアップ活動を行った。9月の台風後だったので、流木や台所用品など予想以上のごみを集めることができ、ふるさとの川を守る活動を体験できた。

(3) 「せせらぎ探検隊」の学習の成果と課題

成果 ・体験活動の設定により、岩見川への興味・関心や追究意欲が高まった。

- ・事前にあててをもたせ事後に振り返りを行うことで、体験活動の意義を理解した。
- ・岩見川漁業協同組合との連携とふるさと先生の活用により、追究内容が深まった。
- ・川の環境に関心をもち、清流岩見川を守ろうとする意識が高まった。
- ・体験や追究したことを学習発表することで、岩見川のよさを伝えることができた。

課題

- ・進んで追究させたいが、安全面からグループ単独の川原探検の追究活動に制約があった。
- ・インターネットを活用し情報収集ができたので、まとめでもコンピュータを活用したい。

総合的な学習の時間「かがやき学習」指導案

平成17年9月28日(水)3校時

- 1 単元名 「ぼくら，せせらぎ探検隊」～岩見川のよさを追分小4年生に教えてあげよう～
 2 目 標

岩見川とその周辺について主体的にかかわり，自分なりの問題を進んで解決することができる。

体験したことや調べたことを工夫してまとめ，追分小学校4年生に教えてあげることができる。

岩見川の環境について調べ，自分たちでできることで川や自然を大切にしようとする。

- 3 全体計画(総時数 45時間)
- ・岩見川を探検し，イメージマップを作成し，課題を設定する。・・・・・・・・・・10時間
 - ・課題別グループで課題を追究する。(水生生物・魚・サケ・石・環境)・・・・・・12 "
 - ・追究したことをまとめ，発表し，追分小へのビデオレターを作成する。・・・・・・8 "
 - ・追分小4年生と岩見川での川遊びの交流会をし，手紙でも交流する。・・・・・・5 "
 - ・環境とのかかわりを調べ，岩見川を守るために自分たちでできることを考える。10 "

- 4 単元と子ども
- 昨夏は岩見川の川下りを体験し，今春は「せせらぎ探検隊」として岩見川を観察・水生生物を探す活動で，子どもたちは岩見川をより身近に感じ，学習意欲をもった。今夏は追分小学校との交流会を予定し，追分小4年生に岩見川について調べたことを教えてあげようと5つの課題別グループ(水生生物・魚・サケ・石・環境)で意欲的に追究し，発表会をビデオレターにして送った。また，岩見川漁業協同組合の協力で鮎の稚魚の放流を体験したり，組合長さんのお話を聴いたりして，岩見川への関心と理解が深まっている。追分小との交流会を無事終え，まとめの段階としてそれぞれの課題と環境とのかかわりについて調べている。清流岩見川を守るために自分たちでできることについて考え，川や自然を大切にしようとする気持ちを高めたい。

- 5 本時の活動(42/45)

(1) ねらい 岩見川の環境を守るために，自分たちでできることについて考えることができる。

学 習 活 動	子どもの学びを支えるために
1. ゲストティーチャーとあいさつをする。 岩見川の環境を守るために，できることを考えよう。	・岩見川漁業協同組合長の山上文明さんを紹介し，子どもたちの考えへの助言をお願いする。 ・本時のめあてと学習の流れを確かめる。
2. 本時のめあてを確かめる。	
3. 課題別グループで調べたことと環境とのかかわりについて，考えや感想を発表する。	・グループの課題と環境とのかかわりについて，考えを発表カードに書いてまとめ，発表できるようにする。 ・質問や意見発表の場を設ける。グループで答えられないときは，山上さんに教えていただく。
4. 質問や意見を交換する。	・醤油や天ぷら油などを準備し，魚が棲める水質にするためにはペットボトル何本分の水が必要か具体的に示し，生活排水が川の汚れにつながることに気づかせる。各家庭や自分たちでできることで実践意欲をもたせるようにする。
5. 「魚が棲める水質にするにはどれくらいの水量が必要か」を考え，自分たちでできることについてシートにまとめる。	
6. ゲストティーチャーのお話を聴く。	・川の環境を守る立場でのお話をお願いする。

(2) 学習活動

- 6 研究テーマに迫るために

(1) 研究テーマ 「豊かな体験活動の計画・実践」

- (2) 学習活動の工夫 ・ゲストティーチャーの活用 ・発表カードの活用
 ・生活排水が川の汚れにつながることに気づかせ方(具体物の提示)